



Amari Ayako

あまり あやこ  
長野県出身、大学卒業後、平成18年に仕事の関係で香川県へ移住、一般企業勤務やフリーランスで活躍。平成21年8月に瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター（こえび隊）に参加し現在に至る。  
詳しくは瀬戸内国際芸術祭2010公式HP <http://setouchi-artfest.jp> こえび隊HP <http://www.koebi.jp/>

「甘利さんは様々な製作補助に参加したがその中でも大変だったのが、空家掃除だったという。アーティストが作品を作る空家は長期間使われていないため草は生え放題、ゴミは捨てられ、中は放置状態で作品を作る状態ではありません。そこをこえび隊がひとつひとつ掃除をしていきます。次にアーティストの方々と共に作品制作の作業が始まりますが、現地で得たインスピレーションをもとに作業するため、作業

### 過酷な作業から始まり

7月19日の「海の日」から10月31日まで「アートと海を巡る百日間の冒険」をテーマに岡山県犬島を含む備讃瀬戸に浮かぶ7つの島+高松を舞台とした地域活性化を目指す国際アートイベント「瀬戸内国際芸術祭2010」が開かれる。会期中は島内全体が美術館のようなものとなり国内外有名アーティストが手がけた現代アートを鑑賞できる。また音楽や演劇、パフォーマンス、シンボジウムなどのイベントも各地で展開される。この製作補助、運営には北川フラム総合ディレクター（直島福武美術館財団ディレクター）が提唱し結成された「こえび隊」と呼ばれる1500人にもなるボランティアサポーターが参加している。そのサポーターを束ねるのが甘利さんだ。

# こえび隊とともに 芸術祭を成功させたい

島々と人々に癒されながら毎日成長の日々

瀬戸内国際芸術祭2010  
ボランティアサポーターこえび隊 隊長

甘利 彩子さん

好きな言葉

まっすぐ

変更は常時です。作業は大変ですが、一緒に表現したい作品に仕上げていく過程は多くの様々な刺激を受けました。また、空家は製作中から風景とともに変化し、会期終了まで変化し続けていくのでこれからの楽しみです」  
現在は事務局内でのサポーターの運営に関する作業が多くなっているという。

「今の時期は毎週末100人ほどのこえび隊が参加しているので事務作業に追われて精神的に辛いことも。そんな時些細なことですが、お菓子の買出しに行ってくれたり、応援メールなどでいろいろ助けてくれます。こえび隊みんなが優しく、その気持ちで作業してくれていると思うと大変救われた気持ちになり感謝しています」

### 芸術祭開催へ向け大詰め

現在7月19日の開催に向けて、作業も大詰めになってきた。

「まだまだサポーターが足りない状態で会期中1日約80人は必要です。ミーティングも月1回、岡山、高松で開催し、メディア等の取材も多く、やることはいっぱいあります。終わった後のことはまだ考えられないですが、まず芸術祭を成功させて閉幕する10月末までこえび隊とともにまっすぐに頑張ります」